

「北上川上流国有林の森林計画に関する住民懇談会」を実施

住民参加の森林づくりを進める一環として、地域のみなさま方からご意見・ご要望をいただく北上川上流国有林の森林計画（平成28年4月1日～平成32年3月31日）に関する住民懇談会を12月17日（水）サンセール盛岡にて開催しました。

当日は、寒波の南下による雪や強風による影響が心配されましたが、管内5市町村からの一般応募の参加者20名と、森林計画検討委員、国有林モニター、岩手県及び市町村の担当者を含め50名を超す参加者で意見交換を行いました。

はじめに、主催者を代表して清水邦夫 盛岡森林管理署長より、業務運営に対する御礼を述べるとともに、多面的機能を有する森林の重要性、また当署での最近の取り組みから、民国連携による紫波町の民有林、国有林における森林整備の事例や、再生可能エネルギーである木質バイオマスに対する需要動向など紹介しつつ、地域住民の皆さんの意見を参考に、次期5カ年の森林計画を策定したいとの挨拶のあと、パワーポイントによる森林計画等の説明に入りました。



懇談会全景



パワーポイントによるプレゼン

意見交換においては、出席者のみなさま方から活発な御発信があり、特定外来植物への対応や、地域の森林の公益的機能の数値化、安定的な木材供給とそのための路網整備、分収造林契約者への情報提供、森林の機能類型区分の情報提供等の要望が出されたほか、作業道の作設と管理、森林環境教育や、国民参加の森づくり等について意見が出されました。



質疑応答

意見交換の最後に参加者全員からご感想をいただいたあと、岩手大学教授 岡田秀二森林計画検討委員より、「森林計画策定の1年前に懇談会を開催し住民の意見を聴取し、反映するという取り組みは重要である。本日出された意見等については、次期森林計画に反映されていくのか、1年かけて見ていきたい。国有林は一般会計化の下での運営となったが、森林だけでなく林業の再生にも取り組んで行くことになった。一方森林・林業については地方公共団体の首長に多くの権限が与えられている。地方創世と言われているが、林業の果たす役割は大きいことから、積極的に取り組んでいただきたい」旨のご発信がありました。

最後に関口高士 東北森林管理局計画保全部長より次期計画の方針として、出された意見を踏まえて次期森林計画の作成に当たる事等を述べ、住民懇談会を締めくくりました。



参加者からの感想



岡田森林計画検討委員の感想

今後、いただいたご意見を参考に、地域管理経営計画等の策定作業をすすめていくこととします。